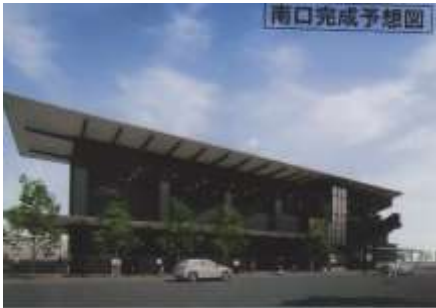


ぶらりわが街宮沢界隈

(40) シリーズ連載の追記・現状・構想 -VI-

「青梅線」市域の駅・周辺整備及びなぜ・はてな
(「⑬青梅鉄道-Ⅰ～Ⅱ」・(25)青梅線の今-Ⅰ～Ⅲ」記載)

・ 東中神駅橋上駅舎・自由通路一



南口完成予想図

平成29年(2017)3月一部完成し使用により、国営昭和記念公園の昭島口など駅北側への移動がスムーズになりました。今まで常設の改札は、昭和25年(1950)4月に建てられた木造平屋駅舎は南口にあり、朝夕各2時間半使用される臨時北口改札はあるが、そばに券売機がないため、駅に入るにはあらかじめカード乗車券などが必要でした。東中神駅橋上駅舎・自由通路完成により、青梅線市域全駅での南北への移動がスムーズになりました。他の橋上駅舎は、昭和58年(1983)6月1日「昭島駅」・昭和62年(1987)7月1日「中神駅」・平成14年(2002)4月26日「西立川駅」・平成19年(2007)8月24日「拝島駅」完成。さらに東中神駅の30年(2018)3月には南北にエスカレーター(昇り専用)設置により、全駅に交通バリアフリー法によるエレベーター・エスカレーターが完成です。



・ 東中神駅北側の「まちづくり」周辺整備一

敗戦により昭和20年(1945)9月4日アメリカ軍立川基地進駐。昭和52年(1977)11月30日全面返還。跡地利用計画で54年(1979)11月

昭島地区については東中神駅周辺の一部は業務地として、残りの大部分が未活用として残す「留保地」となった。58年(1983)11月26日大規模な「国営昭和記念公園」開園。市は新しいまちづくり実現を目指し、立川基地跡地昭島地区の土地利用計画を平成20年(2008)11月財務省に提出。法務省施設「国際法務総合センター」(*29年度(2017)運用開始)建設にあわせて都市計画道路や駅北口東に「交通広場」、民間利用地など周辺整備されつつあります。さらに昭島がス・東京電力北側の民間利用地に「学校給食調理場」「特別養護老人ホーム・こども園・児童センター」建設の必要な用地確保が計画されています。駅北側地区は28年(2016)4月1日新町名「もくせいの杜(もり)」1～3丁目の住居表示実施。

・ 駅名の由来「昭和前駅」* 昭和34年(1959)10月1日「昭島駅」と改称一



昭和前駅(昭和17年) 昭島市民税職掌集より

昭和12年(1937)6月5日昭和飛行機工業設立、直後の6月19日に建設地の代表地主4人の確約書により「昭和停車場」新設要請が青梅電気鉄道に提出された。用地2500坪、建築費用5000円、引込線その他費用3万円を昭和飛行機から提供させる設置要請内容です。さらに3ヶ月後、昭和飛行機からも「会社の貨客の輸送と付近開発のため」の理由書で開設の申し出があった。

翌13年2月認可されるが、直後の3月5日、昭和飛行機から停車場名を「昭和」から「昭和前」変更届け提出。停車場駅名候補として「昭和」のほか「昭和飛行」「昭和飛行機」「武蔵昭和」の案があった。「昭和」は会社でなく当時の昭和村にちなむ、「武蔵昭和」はありふれているとして除外。「昭和飛行」「昭和飛行機」案は飛行と言う名称が軍部で「地図の上から抹殺する方針」つまり、軍部の意向から飛行の二文字は使えないので、会社前にある駅としてアピールできる「昭和前」と決定。13年(1938)12月25日「昭和前駅」として開業した。

(写真上から)東中神駅南口完成予想図、東中神駅橋上駅舎改札口、昭和前駅(昭和17年)

(文・写真)防犯宮沢支部 西山 禎一